

序章 都市計画マスタープランの策定にあたって

01 市民意向調査

02 都市づくりの課題

03 全体構想

04 ゾーン・拠点別方針

05 分野別方針

06 実現に向けて

参考 佐賀市の現況





第3章 全体構想

3-1 都市計画の基本理念

本市は、平成17年10月1日に佐賀市、諸富町、大和町、富士町、三瀬村の1市3町1村、平成19年10月1日に川副町、東与賀町、久保田町の3町と合併し、この2度の合併により、北は脊振山系や天山山系などの豊かな山林、南は日本最大の干潟を有する有明海に接する新しい佐賀市が誕生しました。

この17年間、合併前の市町村がそれぞれの特色を生かした魅力的な拠点としてコンパクトにまとまり、これらが道路ネットワークや公共交通ネットワークでつながるまちづくりを進め、市としての一体感の醸成を図ってきました。

また、合併によって福岡都市圏とのつながりや九州における国内外からの玄関口となる九州佐賀国際空港を有するという強みが生まれ、これら南北のつながりを生かしたまちづくりを進めてきました。

近年では、以前から隣接市との重要な交通ネットワークであったJR長崎本線だけでなく、新たに有明海沿岸道路や佐賀唐津道路の整備が進んだことで、隣接市のみならず県内外の都市を含めた広域的な観点でまちづくりを展開していくことが期待されています。

さらには、SAGAサンライズパークが整備され、県立大学が設立されるなど、佐賀市のみならず佐賀県全体の発展をリードする施設が集約され、都市機能の強化が進んでいるほか、佐賀駅とその周辺のリニューアルなど、日常的に人が集う居心地のよい「ウォークブルシティ」に向けた取組も進んでいます。

このようにまちが変わりゆく中、最上位計画となる第3次佐賀市総合計画では、本市が目指す将来像を「佐賀らしさでみんなが上を向くまち」とし、各分野における施策の方向性を示しています。

都市計画においては、これまでそれぞれの地域が魅力的な拠点としてコンパクトにまとまり、相互に連携し合うことで、まちとしての「佐賀らしさ」を築いてきました。

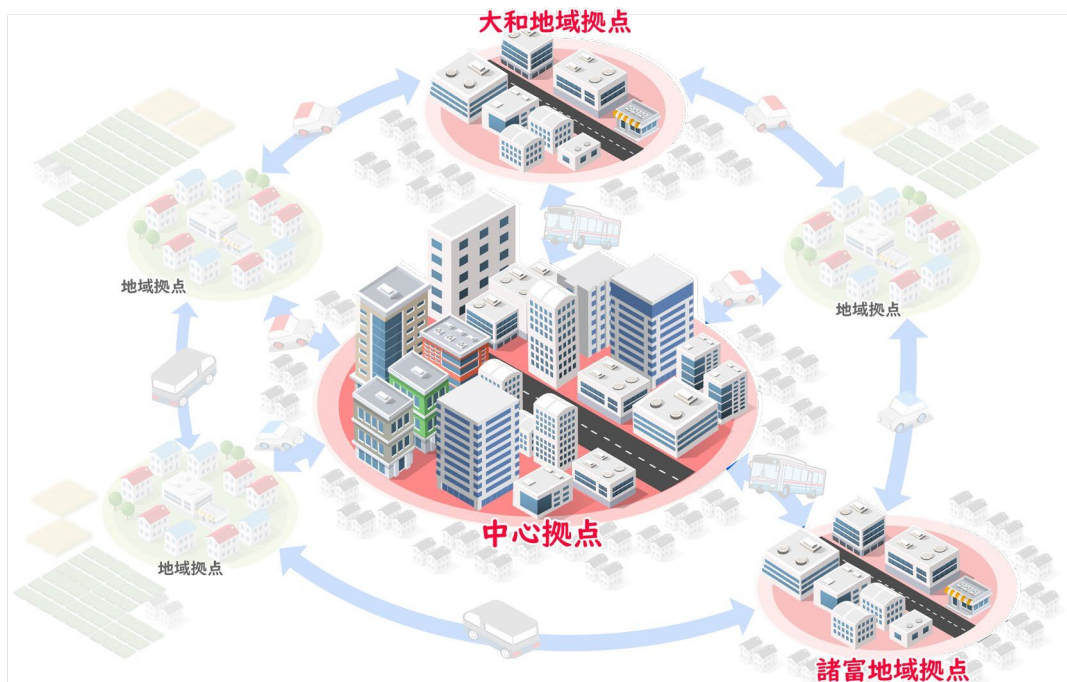
この「佐賀らしさ」をさらに進めていくため、本計画では、「多様な拠点が有機的につながるまち」を都市計画の基本理念とし、これからもそれぞれの地域が築いてきた個性や特性を守り育みながら、それらが拠点として連携し、共に高め合うことで市全体に多様な価値をもたらす、佐賀らしいまちに磨きをかけていきます。

また、本市がこれまで進めてきた「都市機能集約型のまちづくり」、「地域拠点連携型のまちづくり」を一層推進するとともに、人口減少や広域交通ネットワークの強化により、今後ますます重要となる「広域連携を見据えたまちづくり」を加え、これら3つを基本理念の構成要素とし、この基本理念に基づくまちづくりを進めていきます。



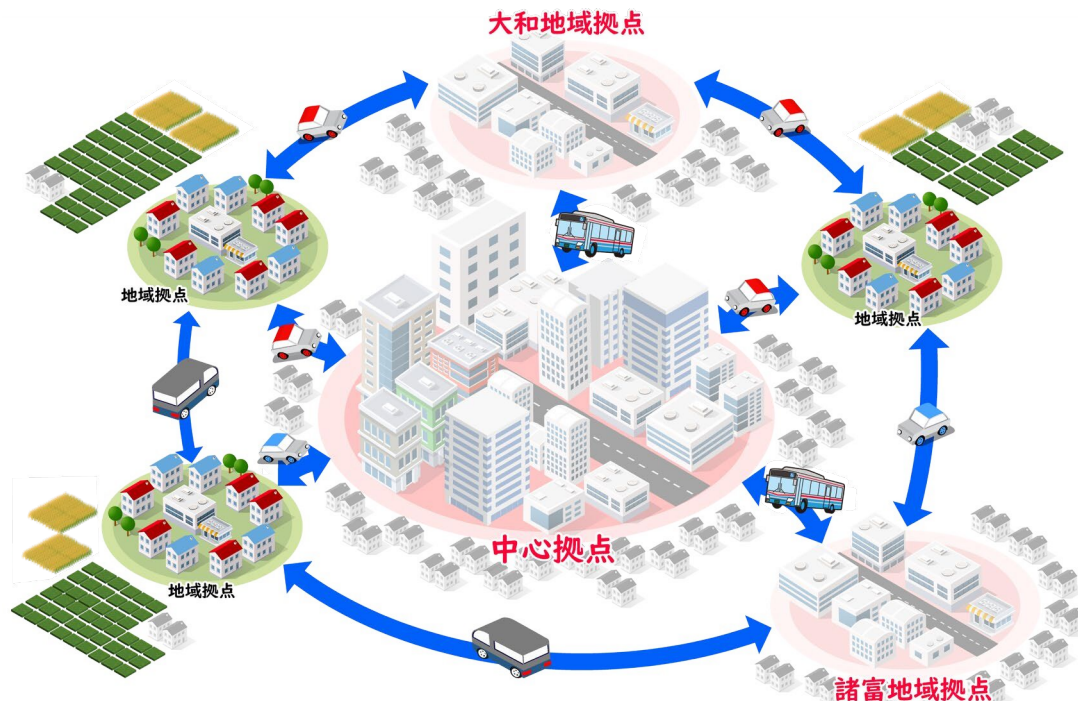
都市機能集約型のまちづくり

◆生活に必要な都市機能を、公共交通などを介して市民が利用・移動しやすい「中心拠点」や「地域拠点（諸富・大和地域拠点）」にコンパクトに集積します。



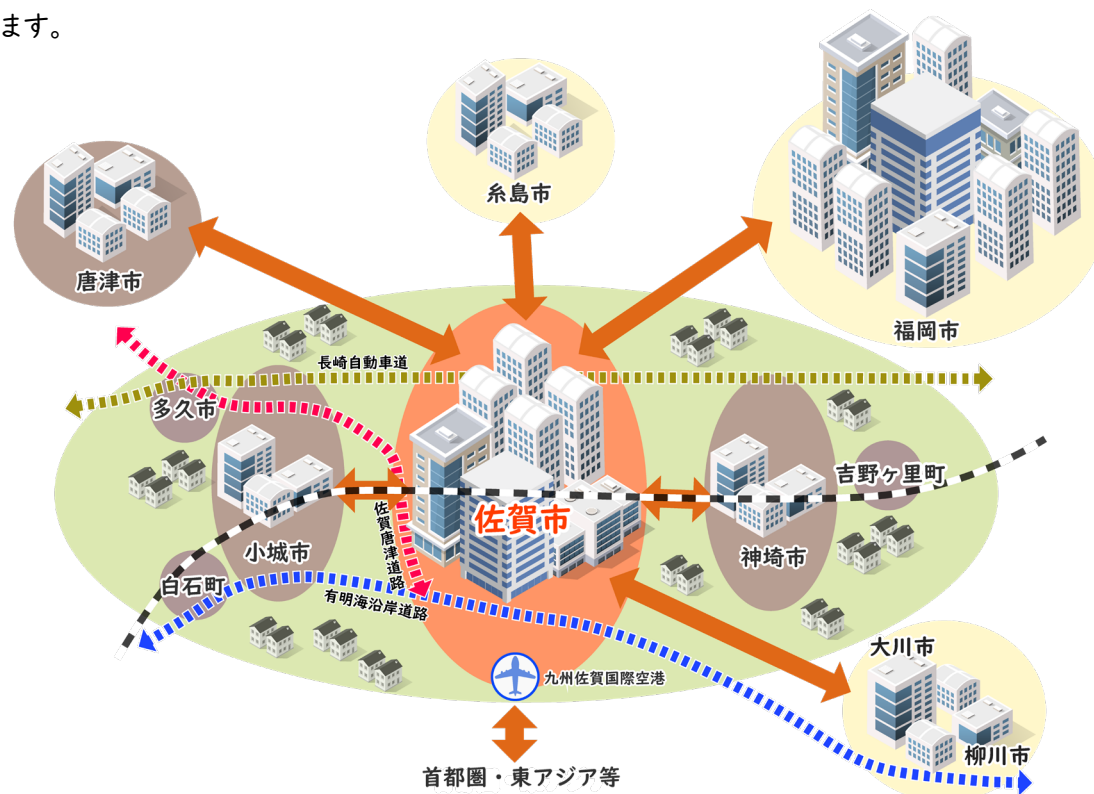
地域拠点連携型のまちづくり

- ◆「市街化調整区域における地域拠点やその集落」（以下「地域拠点等」）の生活利便性を維持するため、「中心拠点、諸富・大和地域拠点」と「地域拠点等」を交通ネットワークで連携することで、生活に必要な都市機能や地域資源を相互に補完します。



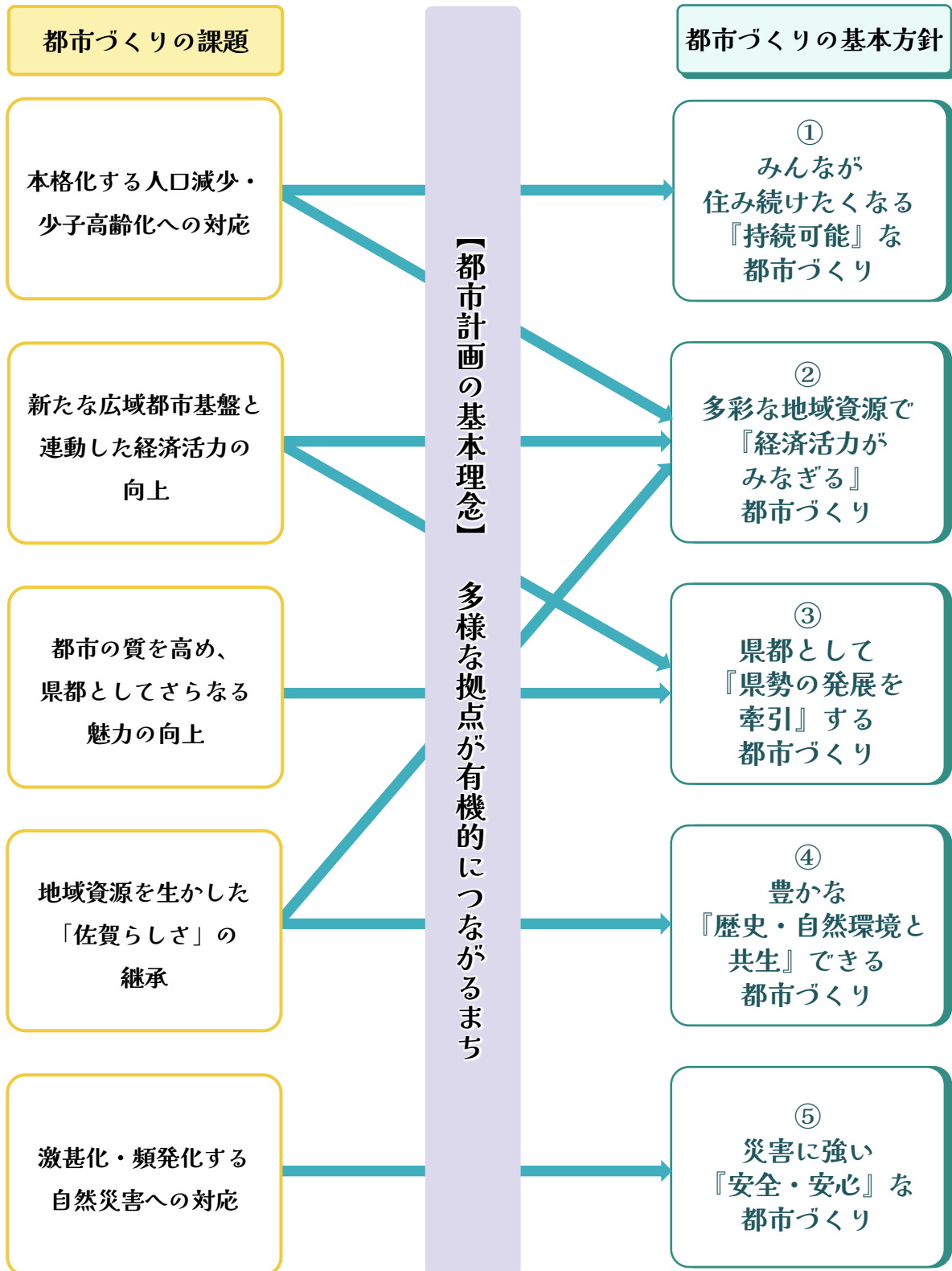
広域連携を見据えたまちづくり

- ◆上位計画である佐賀都市計画区域マスタープランにおける佐賀中部地域の中核都市として、高次都市機能の集積・強化及び広域交通ネットワークの充実を図り、ヒト・モノの流れをさらに活発化させ、広域的な都市活動・社会経済活動を支える県都として、県全体の発展を牽引します。



3-2 都市づくりの基本方針

都市計画の基本理念の実現のため、市民意向調査の結果や本市の現況から抽出した都市づくりの課題を踏まえ、都市づくりの基本方針を以下のとおり示します。





方針
①

みんなが住み続けたいなる『持続可能』な都市づくり

本格的な人口減少・少子高齢化の到来により、医療・福祉、商業、子育て、公共交通などのサービスをはじめ、生活利便性の維持が困難になることが想定されます。

そのため、佐賀駅周辺や地域の暮らしを支える拠点機能を強化していくとともに、これまで進めてきたコンパクト・プラス・ネットワークの取組を加速化・高質化し、将来にわたり誰もが住み続けたいと思える持続可能な都市づくりを目指します。



方針
②

多彩な地域資源で『経済活力がみなぎる』都市づくり

人々のニーズが多様化する中、魅力ある地域資源を生かし、多様なニーズに応えることで積極的に選ばれる都市となる必要があります。

そのため、本市が有する地場の産業や地域資源を磨き上げることで、定住・交流・関係人口の拡大を図り、経済活力がみなぎる都市づくりを目指します。



方針
③

県都として『県勢の発展を牽引』する都市づくり

本市では、鉄道駅や九州佐賀国際空港に加えて、有明海沿岸道路及び佐賀唐津道路の整備により新たな広域交通ネットワークの形成が進んでいます。九州各地や国内外とのアクセス性の向上に伴い、他都市とのさらなる交流拡大等が期待されています。

そのため、ヒト・モノの交流により生まれる広域的な都市連携を促進し、県都として県勢の発展を牽引する都市づくりを目指します。



方針
④

豊かな『歴史・自然環境と共生』できる都市づくり

本市は三重津海軍所跡など近代日本をリードしてきた歴史的背景やみどりあふれる山なみ、優良な農地、恵み豊かな海などを守り育んできました。そうした魅力ある歴史的まちなみや自然的風致による「佐賀らしさ」が損なわれないよう、次世代に継承する都市づくりが求められています。

そのため、本市が有する歴史・文化資源と豊かな自然環境を保全し、それらを生かした魅力的な都市づくりを目指します。

方針
⑤

災害に強い『安全・安心』な都市づくり

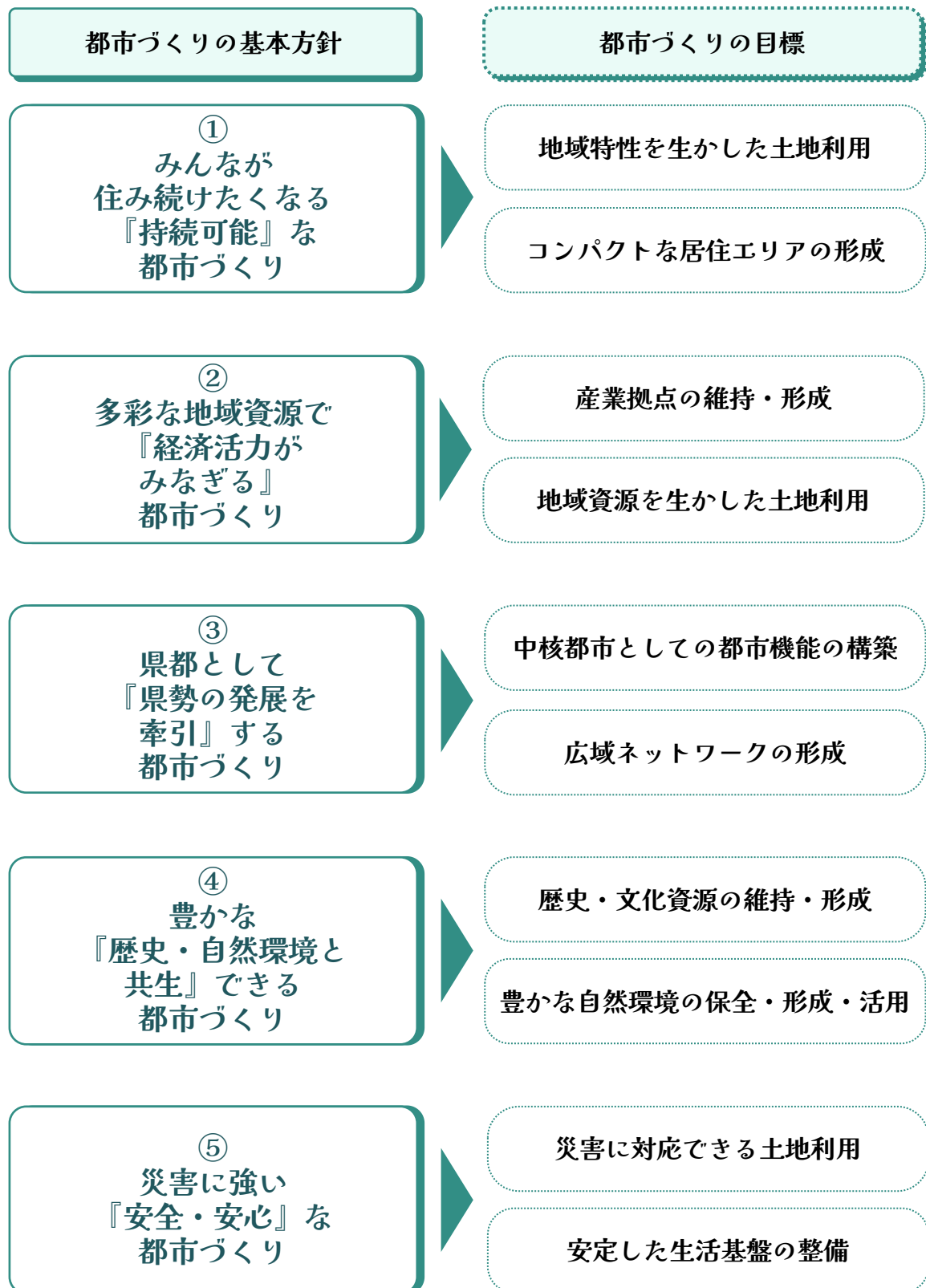
近年、気候変動等に伴う自然災害が激甚化・頻発化し、住宅や都市基盤等の被災リスクが高まってきています。本市でも台風や大雨による被害が増加しており、災害に強い都市づくりが求められています。

そのため、災害が起きることを前提として、ハード・ソフト両面から防災対策を講じることで都市の防災力を高め、誰もが安全・安心に住み続けられる都市づくりを目指します。



3-3 都市づくりの目標

都市づくりの基本方針に基づく具体的な行動指針として、都市づくりの目標を以下のとおり定めます。



基本方針① みんなが住み続けたいなる『持続可能』な都市づくり

都市づくりの目標

■地域特性を生かした土地利用

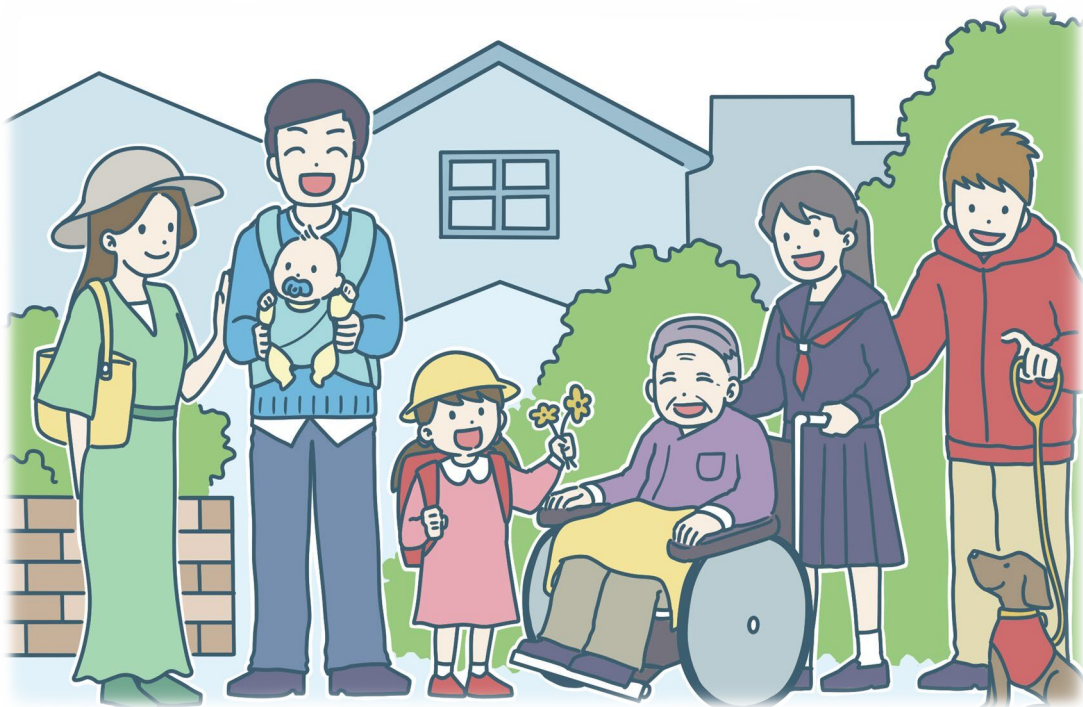
結婚、子育て、退職など各ライフステージやその時々の価値観によって、人々の暮らしにおけるニーズは変化するとともに、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方が可能になるなどライフスタイルも多様化しています。

どこに住み、どのように暮らすのかを一人ひとりが選択できるよう、多様な「住まい方」「暮らし方」に対応できる住環境の形成や各地域に根付く集落のコミュニティを維持・活性化するため、既存の土地利用の状況を踏まえた持続可能な都市を目指します。

■コンパクトな居住エリアの形成

持続可能な都市の実現に向けて、多様な住環境の中でもより住みやすい場所への居住を推進するため、コンパクトで快適な住環境を創出することが必要です。

そのため、医療・福祉、商業、子育て等の都市機能が集積した市街地を形成するとともに、公共交通等の交通ネットワークにより市街地内及び各拠点間のアクセス性の向上を図り、生活利便性や安全性の高い住環境の整備を推進します。



基本方針② 多彩な地域資源で『経済活力がみなぎる』都市づくり

都市づくりの目標

■産業拠点の維持・形成

本市には、各地域で育んできた農業、漁業、工業など多彩な地域産業が存在しています。それら本市を支える経済活動を持続的なものとするため、既存の活動を維持する土地利用に加えて、新たな活動の場を創出し、都市全体の活力向上を推進することが必要です。

多彩な地域産業を維持・活性化するため、引き続き優良な産業用地の確保を図るとともに、鉄道駅、九州佐賀国際空港、長崎自動車道といった既にある本市の強みと合わせて、有明海沿岸道路、佐賀唐津道路といった新たな広域交通ネットワークの整備を踏まえた産業基盤の強化・創出を図ります。

■地域資源を生かした土地利用

みどり豊かな山なみとそこに位置するダム湖、佐賀平野に広がる田園風景、歴史情緒あふれる長崎街道、美しく調和した佐賀城と周辺のお濠など、古くから残る原風景や歴史的なまちなみは「佐賀らしさ」を形づくる重要な地域資源です。

それら本市を彩る多様な地域資源を市内外にアピールできる「佐賀ブランド」として生かし、地域それぞれの価値を高める土地利用を図ります。



基本方針③ 県都として『県勢の発展を牽引』する都市づくり

都市づくりの目標

■中核都市としての都市機能の構築

将来にわたり都市を維持していくためには、これまで以上に市域を超えた近隣都市との連携が必要となります。広域的な都市形成に向けた本市の役割は、県都であり県内の中核都市として、全体の活力につながる都市機能の向上を図ることです。

そのため、本市の都市機能の中心となる佐賀駅を含む市街地をはじめとして、行政、商業、情報、教育など県勢の発展をリードする高次都市機能を集積するとともに、さらなる機能の高度化を目指します。

■広域ネットワークの形成

多様な広域ネットワークを有する本市は、県内だけでなく隣接する福岡都市圏や筑後都市圏、さらには九州佐賀国際空港により首都圏や海外ともつながっており、本市を中心としたさらなるヒトやモノの交流が期待されています。

生活、産業、観光などのあらゆる面において、さらなる都市間交流を促す広域ネットワークを形成し、今ある機能や資源との相乗効果を図ることで、県全体の活力向上に寄与する都市づくりを目指します。



基本方針④ 豊かな『歴史・自然環境と共生』できる都市づくり

都市づくりの目標

■歴史・文化資源の維持・形成

本市には、江戸時代に建設された城下町としての町割、世界文化遺産に登録されている三重津海軍所跡や各地域に根付く伝統文化など、魅力ある歴史・文化資源が数多く残ります。

それらを一度失われると復元できない貴重な財産として引き続き維持・継承していくため、歴史的価値を有する建造物や施設、地域に伝わる祭礼行事や伝統技術などの維持を図るとともに、それらを生かした魅力あふれる都市を目指します。

■豊かな自然環境の保全・形成・活用

山から海までの豊かな自然環境は、歴史・文化資源と同様に失われると元に戻らない大切な地域資源です。また、自然環境の保全・形成は、地球温暖化など社会全体の課題として早急な対策が求められています。

本市においては、公園などの整備と併せたみどりの維持や新たな創出を図るなど、自然環境を適切に保全・形成するとともにそれらを有効活用することで、ゆとりのある都市空間の形成を目指します。



基本方針⑤ 災害に強い『安全・安心』な都市づくり

都市づくりの目標

■災害に対応できる土地利用

地形特性や気候変動の影響から、本市は大雨などによる多くの被害を受けてきました。安全・安心な都市とするためには、近年の激甚化・頻発化する豪雨災害や地震による災害等への対応が急務となっています。

そのため、台風、大雨、地震等が起こることを前提として、土砂災害や浸水被害が発生しやすいエリアなど各地域の特性を考慮し、災害リスクを想定した事前防災・減災に資する土地利用を目指します。

■安定した生活基盤の整備








道路、河川、上下水道などの生活基盤については、日常生活だけでなく災害時においても人命を守るための重要な役割を果たします。


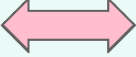



様々な災害が発生することを想定して、発生時の避難路や生活に必要不可欠なライフラインの持続的な確保を実現するため、安定した生活基盤の整備による安全・安心な都市づくりを目指します。



3-4 将来都市構造

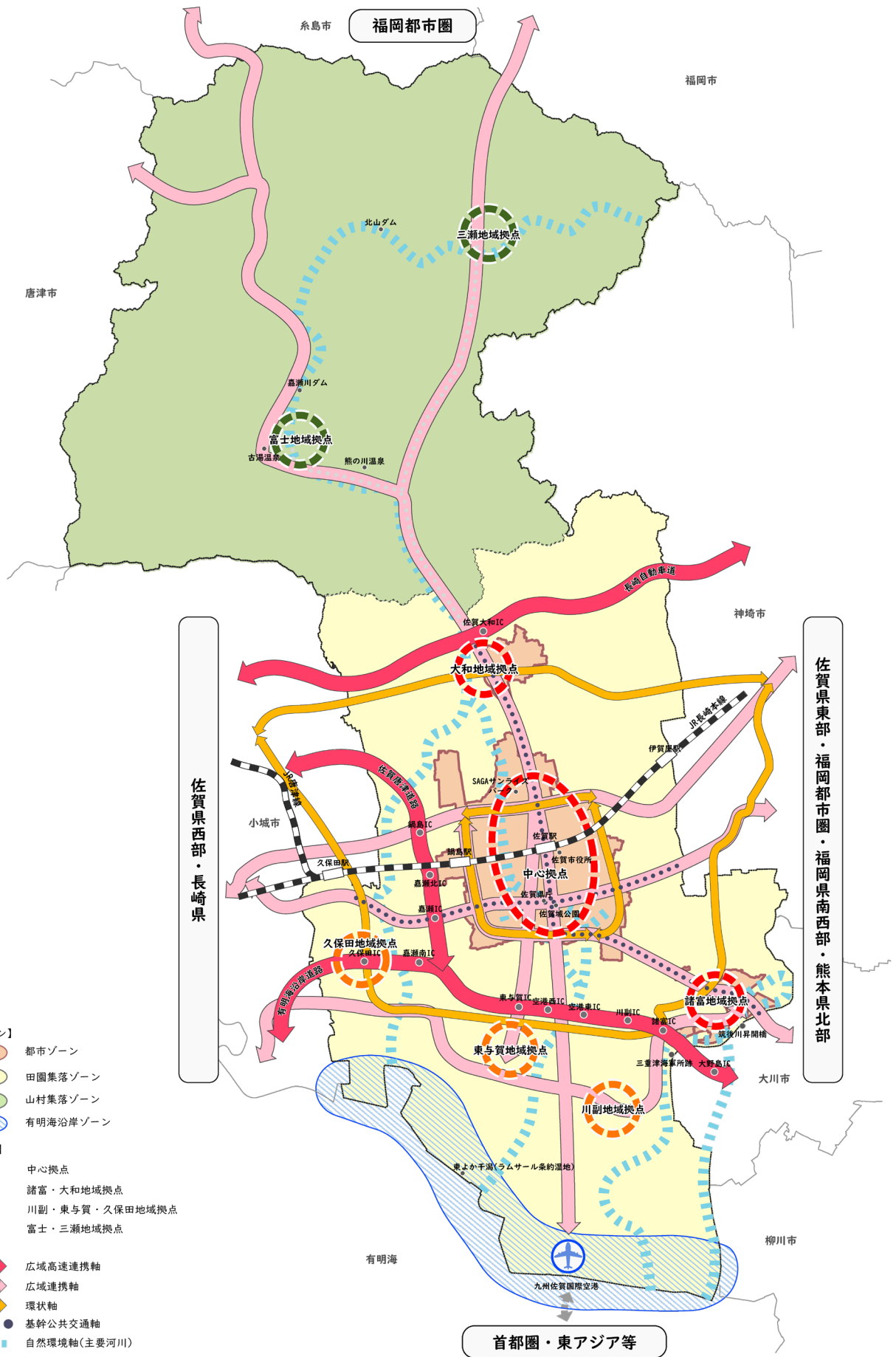
都市計画の基本理念や都市づくりの基本方針、都市づくりの目標の実現に向けて本市が目指す将来都市構造について、その構成要素（ゾーン・拠点・軸）を以下に示します。

構成要素	名称	設定箇所
ゾーン	都市ゾーン 	市街化区域
	田園集落ゾーン 	市街化調整区域
	山村集落ゾーン 	都市計画区域外
	有明海沿岸ゾーン 	有明海沿岸周辺のエリア
拠点	中心拠点 	佐賀駅周辺を中心に多様な都市機能が集積した都市ゾーン内の市街地
	諸富地域拠点 大和地域拠点 	諸富・大和地域において主要な都市機能が立地する都市ゾーン内の市街地
	川副地域拠点 東与賀地域拠点 久保田地域拠点 	川副・東与賀・久保田地域の各支所を中心とした拠点
	富士地域拠点 三瀬地域拠点 	富士・三瀬地域の各支所を中心とした拠点

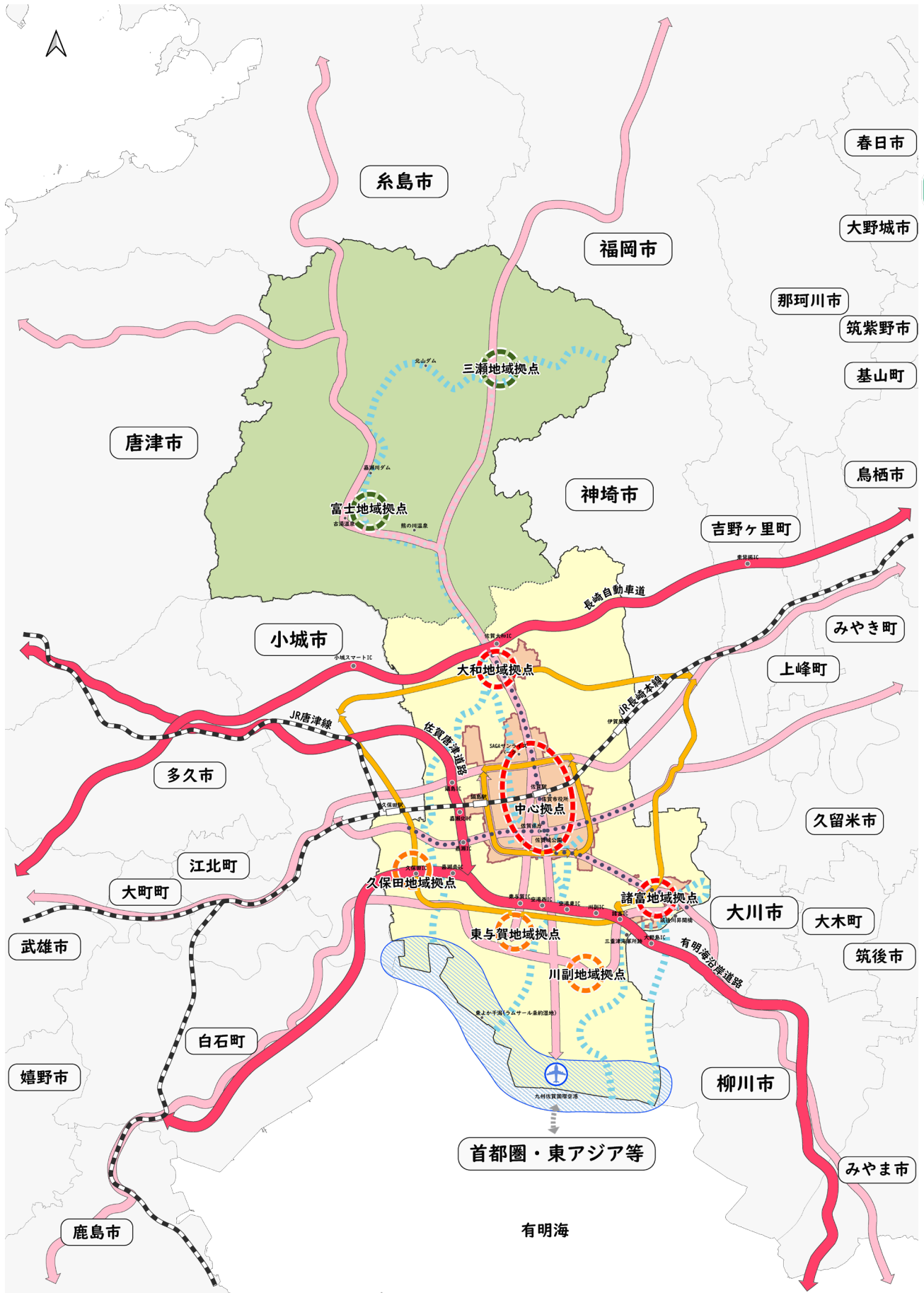
構成要素	名称	設定箇所
軸	広域高速連携軸 	長崎自動車道 有明海沿岸道路 佐賀唐津道路
	広域連携軸 	南北：国道263号、264号、323号 （主）前原富士線 （主）佐賀停車場線 （主）佐賀川副線 （主）佐賀空港線 （県）東与賀佐賀線 市道三溝線 東西：国道34号、207号、208号、264号、444号
	環状軸 	外環状線：国道34号、203号、264号、444号 （主）佐賀外環状線 環状線：国道34号、208号 （県）佐賀環状東線
	基幹公共交通軸 	1日片道30本以上のバス路線
	自然環境軸（主要河川） 	嘉瀬川、筑後川、早津江川 多布施川、天祐寺川、古江湖川、八田江



■将来都市構造図



■将来都市構造図（広域）



序

1

2

第3章

4

5

6

参

